土地に息づく住宅

－銀座のスキマから問う、建築の在り方－

01 定義

豪華さとは…

『土地そのものが持つポテンシャルを最大限に活かすこと』

であると考える。

光の入り方や風の通りなどの環境条件、そして周辺環境との関係性を丁寧に読み取り、その場所でしか成立しない空間をつくることこそが、建築における**豪華**なのではないだろうか。

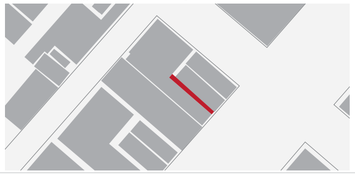
02 問題

現代建築は合理性を優先し、敷地の特性を無視した均質な建築が並ぶ。経済的価値を追う建築が主流となる中で、建築本来の姿が見失われている。

03 敷地

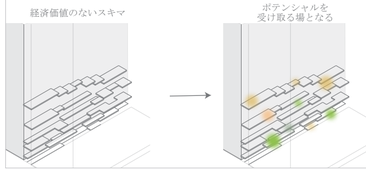
東京都中央区銀座２丁目　ビルの隙間

銀座は、経済の象徴として高級ブランドや商業施設が密集する。その華やかさの裏で、建物の狭間には、都市の矛盾を映すような後ろめたいスキマが静かに息づいている。



04 提案

経済的価値が最も高い場所「銀座」において、経済の論理から見捨てられた「スキマ」にこそ、元来その場がもつ物理的・環境的ポテンシャルを見出し、新たな空間価値を再構築する。



05 アイソメ図　隙間にある負の要素を落とし込む

整えられた銀座の表に隠された隙間に存在する、普段目を向けられない負の要素を抽出し、生活しながら利用することで暮らしが豊かになる。

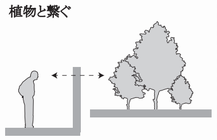
隙間を活かした建築的要素

〈幅〉

隙間ビルの壁＝借りる壁

天井の不必要性

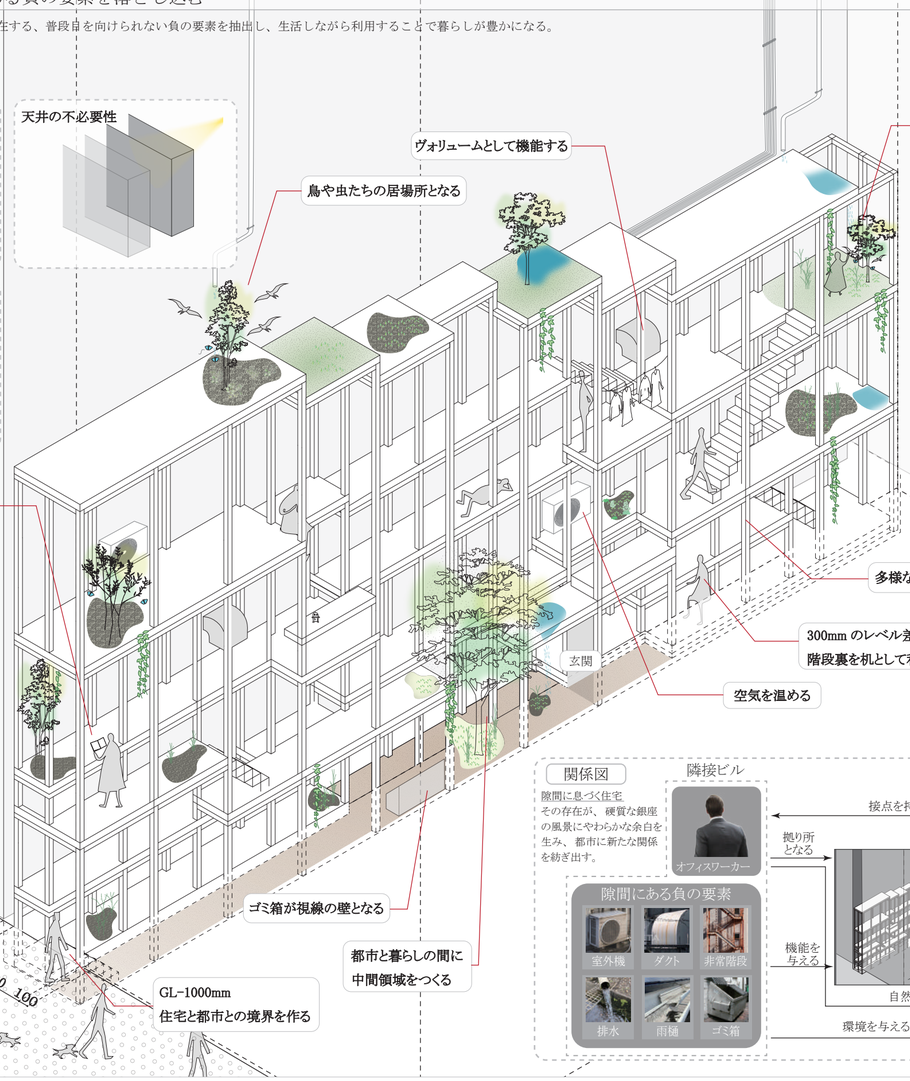
植物と繋ぐ



〈水平〉

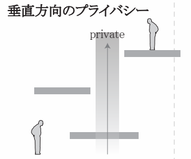
水平方向の開放性

用途の曖昧さ

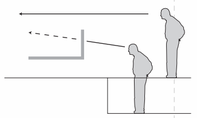


〈高さ〉

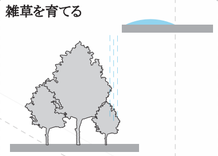
垂直方向のプライバシー



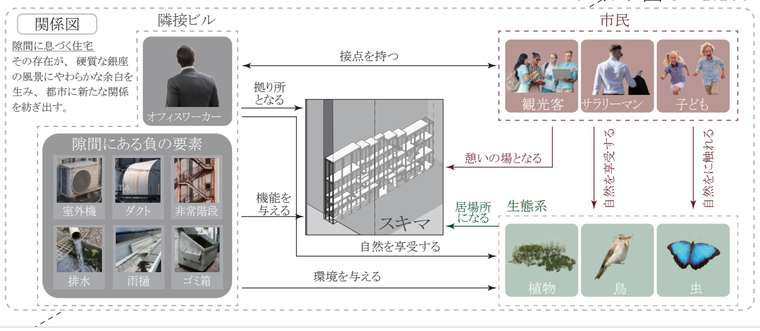
垂直方向のみのプライバシー



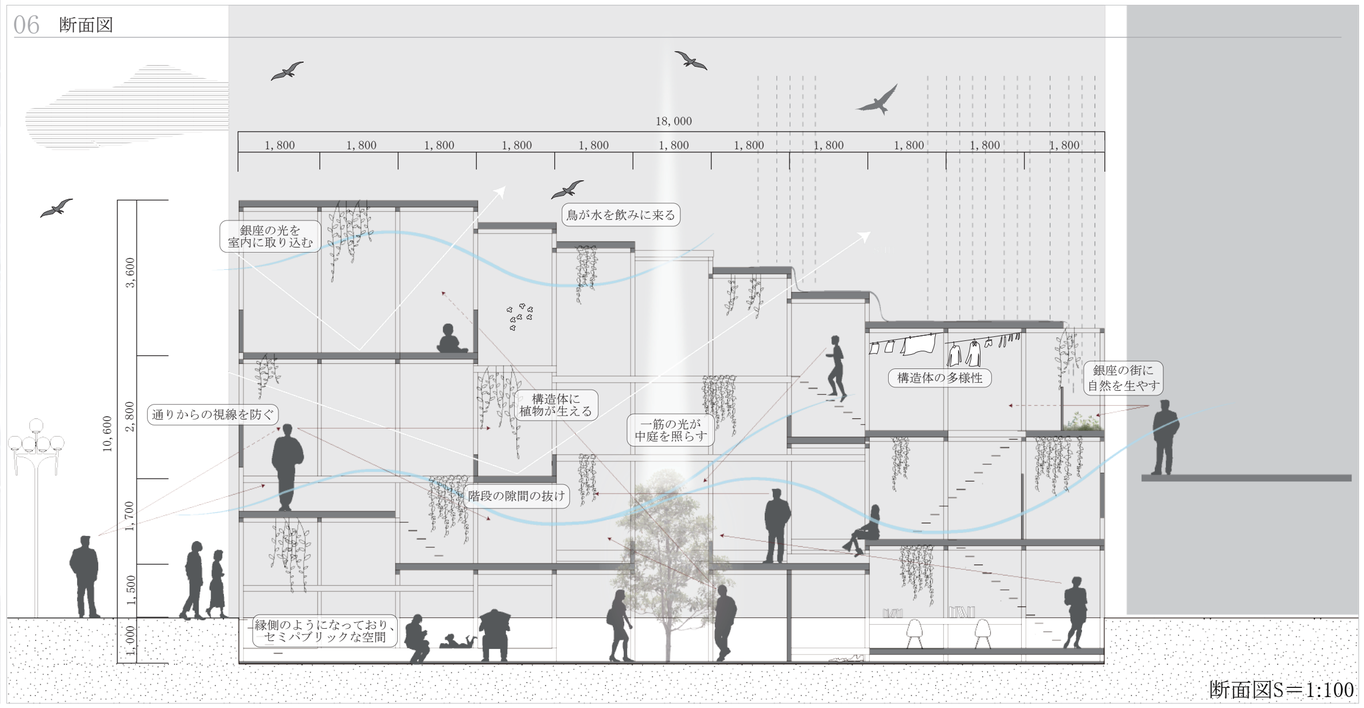
雑草を育てる



アイソメ図 S＝1:100

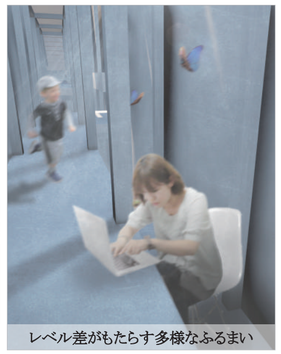


06 断面図

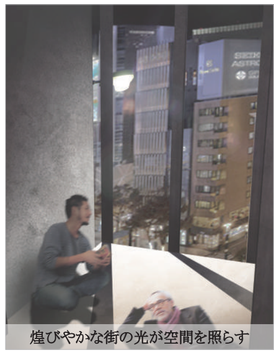


断面図S＝1:100

都市の中の余白として存在する



レベル差がもたらす多様なふるまい



煌びやかな街の光が空間を照らす

周りのビルも自然を享受する